

産地戦略

実施主体	香川県グリーン農業コンソーシアム
都道府県	香川県
対象地域	丸亀市、まんのう町
対象品目	ミニトマト コマツナ ミズナ



● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

有機農業は、化学農薬を使用しないため、葉物などの野菜栽培では、害虫や雑草対策として施設栽培が有効であるが、施設栽培は、病害虫の防除対策にあたっての利点はあるものの、設置などの初期投資が必要で、農業をこれから始めようとする新規の方には、販売先の確保とともに大きな課題となっています。

そこで、売り先として産直市など、県内での流通量も安定しているミニトマトについて、有機農業の実践者に協力いただき露地栽培での低コストで省力的な栽培方法について、検討した。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名						○は種 ○移植 ●本ほ土壌消毒	△定植 鉢上げ 接ぎ木 ●本ほ耕起 ◎基肥施用 ホルモン処理	芽かき 摘花（果）	収穫初め 誘引 追肥 防除	保温準備	摘心 加温準備	収穫終了	ミニトマト抑制栽培（ハウス）
灌水管理							多少多め やや控える	多少多め やや控える			やや控える		
主な作業名	本葉3 ～4枚 時に ←→ 水切り	収穫										○は種 定植準備 ←→ 発芽まで十分 かん水を行う。 ←→	コマツナ栽培（ハウス）
主な作業名	○播種	■収穫			○播種	■収穫	○播種	■収穫		○播種		■収穫 ○播種	ミズナ栽培（ハウス）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業名			○は種	○移植 ●本ぼり ◎堆肥・基肥準備	△定植		収芽かき 摘花(果)	摘心 誘引	収穫終了				ミニトマト露地栽培
灌水管理					←やや控える→		←多少多め→		←やや控える→				
技術名					←防草シート→		←フェロモントラップ→						
主な作業名		■ 収穫	○ 播種	■ 収穫			◀太陽熱消毒▶		○ 播種	■ 収穫		○ 播種	コマツナ栽培(ハウス)
主な作業名		■ 収穫	○ 播種	■ 収穫			◀太陽熱消毒▶		○ 播種	■ 収穫		○ 播種	ミズナ栽培(ハウス)
技術名	←播種機利用による播→						◀太陽熱消毒▶		←播種機利用による播種→				コマツナ・ミズナ栽培(ハウス)
	防虫ネット設置(ハウス開口部)												
	防草シート(ハウス周囲)												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R 6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）ミニトマト	5.0	▶ 5.0	
コマツナ・ミズナ	6.2	▶ 6.2	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）ミニトマト	0.1	▶ 1.1	
コマツナ・ミズナ	0.0	▶ 1.1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）ミニトマト	0.1	▶ 1.1	
コマツナ・ミズナ	0.0	▶ 1.1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）ミニトマト	0.1	▶ 1.1	
コマツナ・ミズナ	0.0	▶ 1.1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料の施用	▶ ・緑肥や堆肥を活用した土づくり ・有機質肥料（鶏ふん）の利用 ・土壌診断に基づく適正施肥	化学肥料を使用しない栽培体系の確立 （化学肥料の使用量の低減10割）
環境	化学農薬の施用	▶ ・フェロモントラップによる害虫の捕殺	化学農薬によらない防除技術の確立 （化学合成農薬の使用量の低減10割）
環境	化学農薬の施用	▶ ・ハウス開口部の防虫ネットの被覆 ・太陽熱消毒	化学農薬によらない防除技術の確立 （化学合成農薬の使用量の低減10割）
省力	除草剤（化学農薬）による防除	▶ ・防草シート+マルチ（ミニトマト） ・暴走シート（コマツナ）	作業時間の短縮（作業時間の4割削減） 除草剤を使用しない管理技術の確立 （化学合成農薬の使用量の低減10割）
省力	人力による播種	▶ ・は種機の活用	作業時間の短縮、軽労化 （播種作業時間の5割減）

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬の使用回数（回）	40	▶ 0	ミニトマト
環境	化学農薬の使用回数（回）	8	▶ 0	コマツナ
環境	化学農薬の使用回数（回）	6	▶ 0	ミズナ

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する

（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

生産者グループと行政（普及センターなど）が連携し、新規農業者や既生産者への生産の安定・拡大の支援により、実施者数の増、取組面積の拡大を進める。

関係者の役割

関係者名	生産者グループ	農業改良普及センター	香川県農業経営課	香川県農業大学校
役割	栽培マニュアル等を活用し、有機農業等を志向する新規の農業者への指導と既生産者の生産安定化により取組面積を拡大。	有機農業の生産の安定化に向けた技術的指導及び事業実施地域でのグリーンな栽培体系の普及。	生産者に限らず、需要拡大に向けた流通や消費者への有機農業を始めとする環境にやさしい農業の推進に係る普及啓発や情報発信。	講義・実習などを通じて農業を学べる農業大学校と地域の生産者が連携して、有機農業のすて野を拡大。

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

市町の学校給食や販売店向けの研修会の開催や有機農業を始めとする環境にやさしい農業の生産者グループとのマッチングによる需要拡大。また、環境にやさしい農業の普及啓発動画のSNSを活用し、消費者への普及啓発により需要拡大をはかる。
--